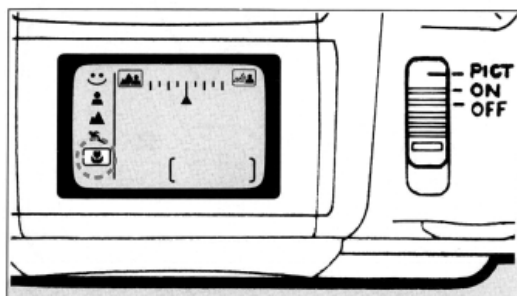


近接モード



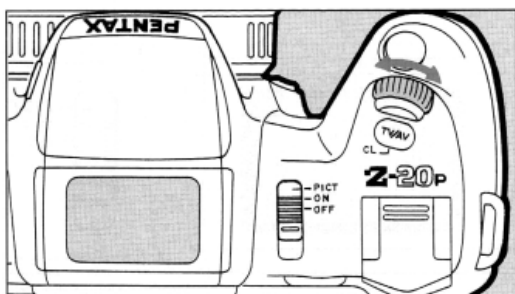
近接撮影をするときに使うと便利です。
このモードで撮影を行うと、ピントの合う範囲が広がっていますので、シャープな写真が撮れます。

表示パネルの  に  を合わせます。

* セレクトダイヤルを回してピントの合う範囲を広くしたり、狭くしたり好みに合わせて変えることもできます。
[40ページのハイパープログラムシフト参照]

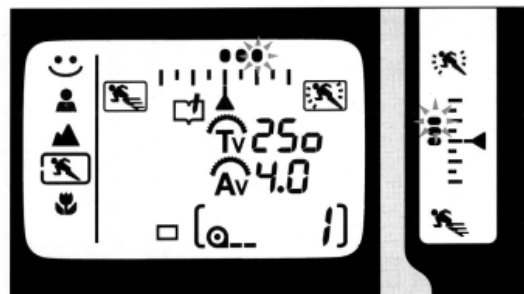
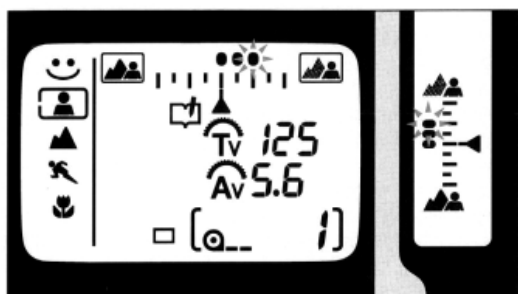
III 応用的な使い方

(1) ハイパープログラムシフトについて



ピクチャーモード[グリーンモードを除く]の各モードでは、セレクトダイヤルを左右に回すだけで簡単にピントの合う範囲やぶれの量を変えることができますので、写真の効果[95ページ]の変化を楽しむことができます。また、表示パネルやファインダー内でシフト量を簡単な効果マークで確認できます。

- * ハイパープログラムシフトは、適正露出が得られる範囲内だけでしかできません。
- * プログラム自動露出でもハイパープログラムシフトができます。ただし、バークラフは表示されません。
- * シャッターを切ってもハイパープログラムシフトは解除されません。
- * ハイパープログラムシフトでは学習機能が働きます。
- * レンズを外すとハイパープログラムシフトは解除されます。



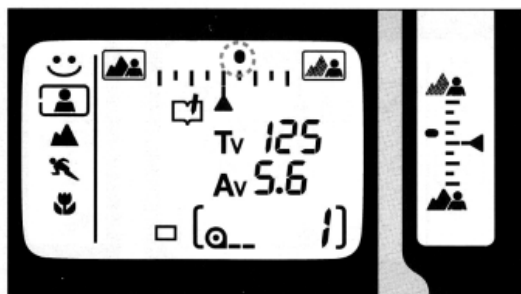
動物モードの場合

セレクトダイヤルを右に回すと、よりぶれの量を少なくはっきりした写真にすることができます。このとき、表示パネルとファインダー内のバググラフの黒丸の点滅が右側に増えながら移動して行き、ぶれの量が少ない方向に変化していることを知らせます。逆に、セレクトダイヤルを左に回すと黒丸が左側に増えながら移動してぶれの量を多くすることができます。

- * ハイパープログラムシフトを行うと、表示パネルのTvとAvマークの上に「H」が付いて知らせます。また、ファインダー内のシャッター速度と絞り値の下に横棒が点灯して知らせます。
- * ハイパープログラムシフトを解除するときは、Tv/Avボタンを押してください。
- * バググラフの範囲を越えてハイパープログラムシフトを設定すると黒丸は点灯に変わります。

(41)

(2) 学習機能について



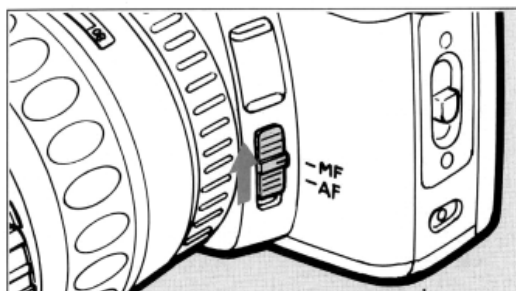
ピクチャーモード[グリーンモードを除く]のときに、ハイパープログラムシフト[40ページ参照]を利用すると、その頻度に応じてカメラが自動的にあなたの癖を覚えてより使いやすい方向に変化させる学習機能が働きます。図のように、学習機能の内容は表示パネルおよびファインダー内のバググラフで確認できます。表示パネルのバググラフの黒丸が右[ファインダー内は上]に移動した場合は、ピントの合う範囲が狭くなる方向あるいはぶれが少なくなる方向に変化した場合です。逆に表示パネルのバググラフの黒丸が左[ファインダー内は下]に移動した場合は、ピントの合う範囲が広がる方向あるいはぶれが多くなる方向に変化した場合です。

- * シャッターを切る毎に表示パネルの「L」が点滅をして、学習機能が働いていることを知らせます。
- * 表示パネルに「L」が表示されていないと学習機能は働きません。
- * 学習機能の内容は、電源を切ったり、電池を抜いてもそのまま記憶されます。
- * ペンタックスファンクション設定で、学習機能を働かなくすることができます。学習機能が働いている状態で、ペンタックスファンクションにより学習機能を働かなくすると、そのときの学習内容に固定したままで撮影することができます。
- * 学習機能の取り消し方法は85ページをご覧ください。
- * 学習機能はグリーンモードを除く4つのピクチャーモードでそれぞれ独立して働きます。

(42)

(3) 手動によるピント合わせ

1



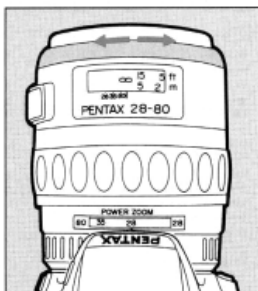
マニュアルフォーカスレンズを使う場合

従来のKAやKマウントレンズで、開放F値がF5.6以上の明るいレンズ[F1.2~5.6]を使うと、ファインダー内の合焦マーク  を利用した手動ピント合わせができます。

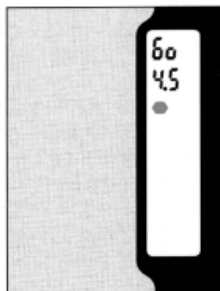
使い方

1. フォーカスモードレバーを **MF** にセットします。
2. ファインダーを覗きながらシャッターボタンを半押しした状態で、レンズの距離リングを左右に回してください。
3. ピントが合うとファインダー内の合焦マーク  が点灯して知らせます。そのままシャッターボタンを押し切って撮影してください。

2



3



- * KAFおよびKAF2マウントレンズを使用しても、フォーカスモードレバーを **MF** にセットすると同じ操作になります。
- * 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けても、ファインダー内の合焦マーク  によるピント合わせはできません。
- * ピントが合うと、ファインダー内の合焦マーク  の点灯と同時に「ビピッ」と電子音が鳴りますが、ペンタックスファンクション設定で電子音を消すこともできます。[84 ページ参照]

43

オートフォーカスが使えない場合

以下の理由で、オートフォーカスやファインダー内の合焦マーク  が使えない場合は、ファインダーのマット面を利用して従来の一眼レフカメラと同様に手動でピント合わせをしてください。

- a) 「オートフォーカスの苦手な被写体」で合焦マーク  が点滅するとき。
- b) 開放F値がF5.6より暗いレンズを使っているとき。
- c) ペロローズ100mm F4、シフト28mm F3.5[シフト状態]、レフレックスタイプのレンズを使用したとき。
- d) 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けて使用したとき。

使い方

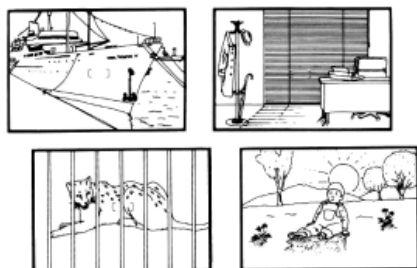
1. フォーカスモードレバーを **MF** にセットします。
2. ファインダーを覗きながら、レンズの距離リングを左右に回してファインダー内の映像が最もはっきり見えるようにピントを合わせ、撮影してください。

スナップインフォーカス撮影について

KAおよびKマウントレンズを使用して、フォーカスモードレバーを **AF** にセットすると、別売りのケーブルスウィッチFを利用してピントが合ったときに自動的にシャッターが切れるスナップインフォーカス撮影ができます。

1. レンズはKAおよびKマウントレンズを使用します。
2. フォーカスモードレバーを **AF** にセットします。
3. 写したいものが通りそうな位置にピントを合わせます。
4. ケーブルスウィッチFを使って、シャッターボタンを押し切った状態にします。
5. 写したいものがピントを合わせた位置に来ると、自動的に撮影されます。

(4) オートフォーカスの苦手な被写体



オートフォーカス機構はきわめて高精度のものですが、万能ではありません。被写体の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによって、ピントが合わない場合があります。ファインダー内の合焦マーク  を利用してピント合わせを行なう手動ピント合わせも同様です。そんなときは、被写体とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロックをしたり、フォーカスモードレバーを **MF** にセットして、従来の一眼レフカメラと同様にファインダーのマット面を利用して手動ピント合わせを行なってください。

- a) A F フレーム  に白い壁などの極端にコントラスト[明暗差]の低い被写体がある場合。
- b) A F フレーム  に光を反射しにくい被写体がある場合。
- c) 非常に速い速度で移動している被写体。
- d) A F フレーム  に横線のみ被写体や細かな模様の被写体がある場合。
- e) 遠近のものが A F フレーム  の中で同時に存在する場合。
- f) 反射の強い光、強い逆光[周辺が特に明るい被写体]。

アクセサリーの注意

以下の条件では、オートフォーカスやファインダー内の合焦マーク  を利用した手動ピント合わせができません。ファインダー内のマット面で手動ピント合わせをしてください。

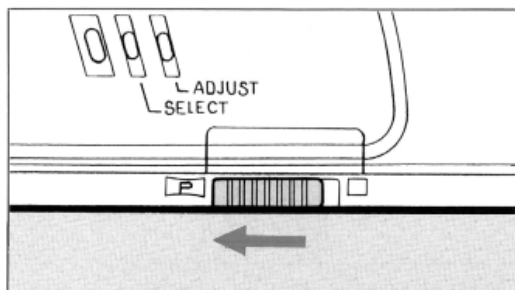
- a) 特殊なフィルターや「マジックイメージアタッチメント」・「ステレオアダプター」などを使った場合。
- b) オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスの精度が低下します。オートフォーカスで使用する時には円偏光フィルターをご利用ください。
- c) 「接写リング」や「オートベローズ」を使った拡大接写撮影の場合。

SMCペンタックスFソフト85mm F2.8使用時の注意

約1.5mより近距離の撮影をするときは、レンズの絞りをF2.8~4.5でご利用ください。これより小絞り[F5.6~32]にすると、カメラのオートフォーカス[F I も同様]が誤合焦することがあります。F5.6より小絞りを使う場合には、一旦レンズの絞りをF4.5に合わせてピント合わせを行ない、フォーカスロックをしたまま希望の絞りに回して撮影してください。

(5) パノラマ撮影

1



「Z-20P」では、撮影途中でも自由にパノラマと標準撮影とを切り替えることができます。

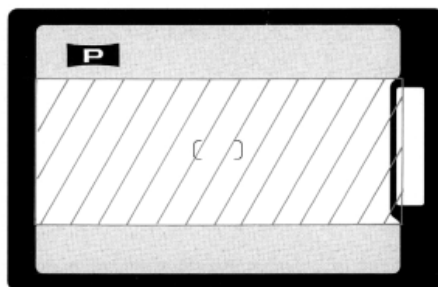
パノラマ撮影では横長〔フィルム上で13×36mm〕に写りますので、パノラマプリントにするとダイナミックな写真が楽しめます。

1. パノラマ撮影に切り替えます

パノラマ切り替えスイッチを **[P]** に合わせるとパノラマ撮影モードになります。

* パノラマ切り替えスイッチのセットは、パノラマ撮影 **[P]** か標準撮影 **[]** どちらかの止まる位置まで確実に動かしてください。スイッチを途中の位置にすると、画面がケラレてしまうことがあります。

2



2. 撮影します

パノラマの視野枠内〔斜線部分〕に写したいものを入れて撮影してください。

* シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に **[P]** が表示されます。

* プリントする際に画面周辺でフィルムに写っていたものが切られてしまうことがあります。構図を決めるときに少し余裕を取っておくと安心です。

* パノラマ撮影モードでは、デートを写し込み可能な状態にしても、デートは写し込まれません。

(47)

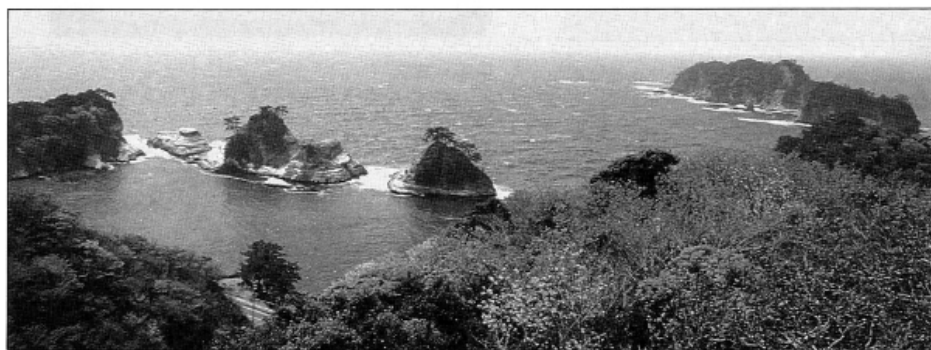
パノラマプリントについて

パノラマモードで撮影されたフィルムの現像／プリントをご依頼になるときは、必ず付属のパノラマシールをフィルム〔パトローネ〕に貼り、パノラマプリントとご指定ください。

●パノラマと標準撮影を途中で切り替えて撮影した場合 →



●フィルム全数をすべてパノラマで撮影した場合 →

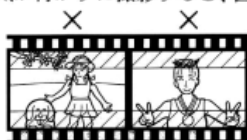


(48)

- * パノラマモードで撮影した場合、通常の同時プリントに比べ日数、料金がかかります。
詳しくは、お店でおたずねください。
- * パノラマ／標準混在の場合、お店によっては同時に仕上がらないことがありますので、現像のみを先に仕上げてプリントを依頼するなどの方法がありますので、お店にご相談ください。
- * パノラマ撮影では、図のように標準撮影のフィルム1コマ分の上下をカットするだけですから撮影枚数は、標準撮影のときと同じです。

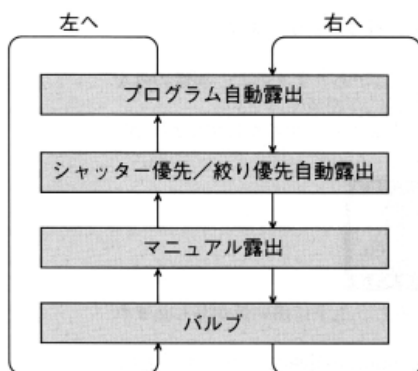


- * パノラマモードで撮影したフィルムを通常サイズのプリントにすると、上下に黒い帯が写し込まれます。
- * パノラマプリントされるのはフィルム中央部のおよそ12mm×35mmの範囲で、フィルム上に写し込まれる範囲は、これより若干広くなりますが、ファインダーで見える範囲はパノラマプリントされる範囲とほぼ同じになります。
- * パノラマプリントはおおよそ89×254mmのサイズにプリントされます。これは標準撮影されたフィルムを六ツ切りサイズに引き伸ばしたものと同倍率になります。
- * 標準撮影のときは、必ずファインダー内のパノラマシグナル  が消えていることを確認してください。パノラマ撮影になっていることに気が付かず撮影すると、図のようにフィルムの上下の必要な部分がカットされてしまいます。



(49)

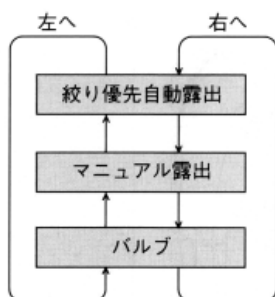
(6) 各露出モードを選びます



電源スイッチを **ON** [フルスベックポジション] にすると、絞りがA位置のままでも全ての露出モード[ピクチャーモードを除く]を選ぶことができます。従来のように露出モードによって、絞りの位置を切り替える必要がありません。

露出モードの変え方

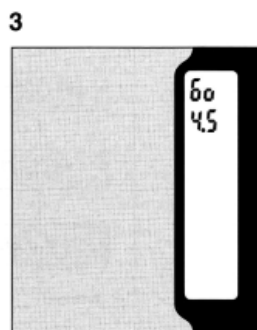
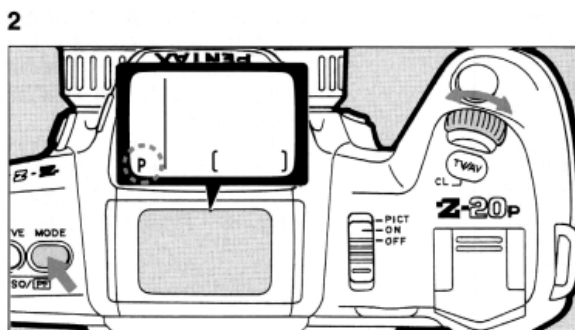
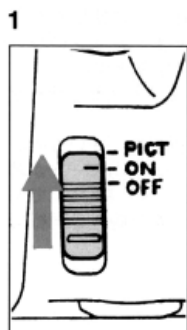
Z-20Pのフルスベックポジションには5つの露出モードがあり、モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回すと矢印の順で露出モードを変えられます。各露出モードについては、それぞれのページの説明をご覧ください。



以下の場合には、絞りをA位置から外してご使用ください。なお、Aレンズより前のレンズ[Aポジションのないレンズ]を使用する場合も同様の扱いになります。

- 接写リングなど、絞りの連動がきかないアクセサリーを使用した場合。

- 旧タイプのストロボで、絞りがA位置で使えないもの。絞りがA位置以外では、図のように3つの露出モードが選べ矢印の順で変化します。[電源スイッチが PICT] でも同様。モードの変え方は、絞りがA位置の場合と同様です。

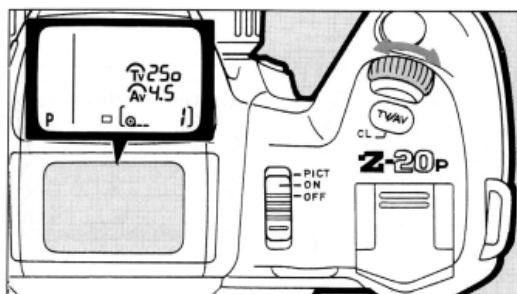


プログラム自動露出の使い方

プログラム自動露出は、カメラが自動的に露出を決定しますので、シャッターボタンを押すだけで簡単に撮影が楽しめます。

絞りをA位置にします。

1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、表示パネルに **P** のマークを出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞りが表示されます。



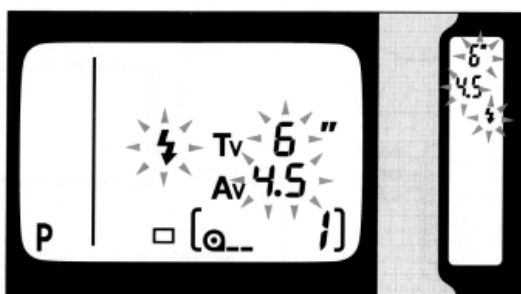
プログラム自動露出のハイパープログラムシフト
ピクチャーモードと同様、プログラム自動露出でもハイパープログラムシフトが行えます。ハイパープログラムシフトでは、露出を変えずにシャッター速度と絞りの組み合わせだけを変えることができます。
セレクトダイヤルを右に回すとシャッター速度が速い方向[絞りは開放側]に、左に回すとシャッター速度が遅い方向[絞りは小絞り側]にシフトします。

* ハイパープログラムシフトを行うと、表示パネルのTvとAvマークの上に「」が付いて知らせます。また、ファインダー内のシャッター速度と絞り値の下に横棒が点灯して知らせます。

* ハイパープログラムシフトを解除するときは、Tv/Avボタンを押してください。

* ハイパープログラムシフトは、適正露出が得られる範囲内だけでしかできません。

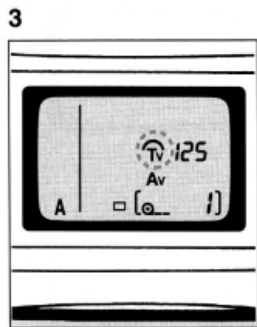
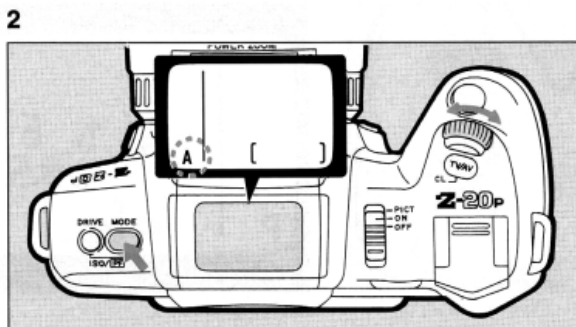
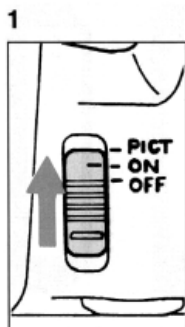
* プログラム自動露出では、バーグラフは表示されません。



※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。明るすぎるときは、NDフィルターなどをご利用ください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

53



シャッター優先自動露出の使い方

希望のシャッター速度に合わせると、被写体の明るさに応じて絞りが自動的に変わり、適正露出が得られます。速い速度で動きを止めたり、遅い速度で動感を出すのに適しています。[95 ページ参照]

絞りをA位置にします。

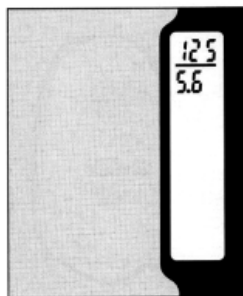
1. 電源スイッチを「ON」にします。
2. モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、表示パネルに「A」を表示させます。
3. Tv/Avボタンを押して表示パネルのTvマークの上に「」を表示させます。

54

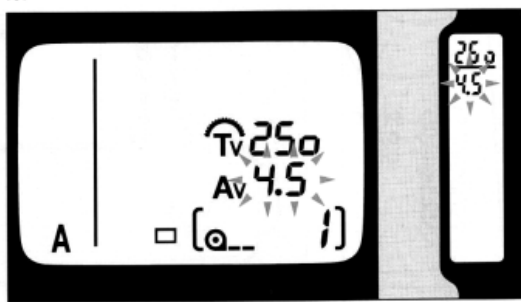
4



5



※



※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの絞り値表示が点滅して警告します。明るすぎるときはシャッター速度を速く、暗すぎるときはシャッター速度を遅くして点滅が止まれば撮影できます。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外です。NDフィルター[明るい場合]やストロボ[暗い場合]などをご利用ください。

4. セレクトダイヤルでシャッター速度を変えます。

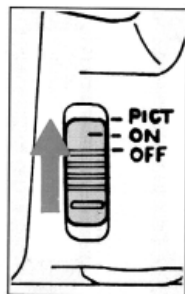
* このとき、ファインダー内のシャッター速度表示の下にも横棒が表示されます。

* セレクトダイヤルを右に回すとシャッター速度が速くなり、左に回すと遅くなります。

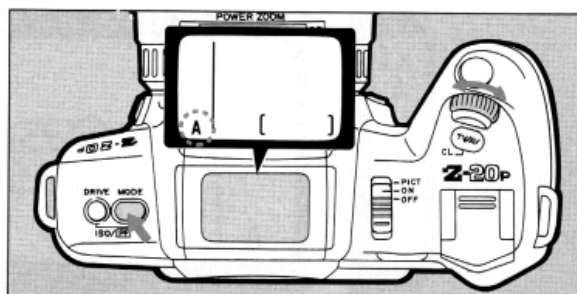
5. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と、絞りが表示されます。

55

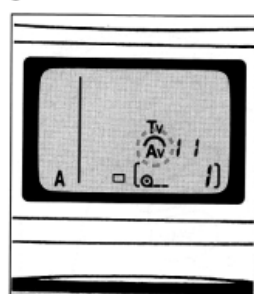
1



2



3



絞り優先自動露出の使い方

希望の絞りを合わせると、被写体の明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わって適正露出が得られます。ピントの合う範囲を広くしたい風景写真や、背景をぼかしたい人物の撮影などに適しています。[96 ページ参照]

絞り A 位置の場合

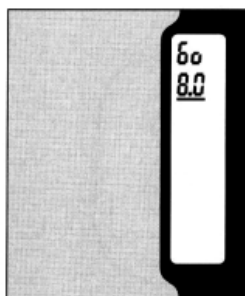
1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、表示パネルに **A** を表示させます。
3. **Tv / Av** ボタンを押して表示パネルの **Av** マークの上に **1/1** を表示させます。

56

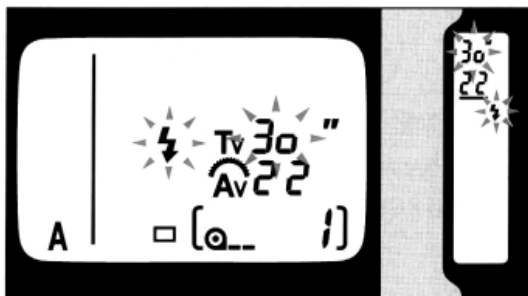
4



5



※



4. セレクトダイヤルで絞りを変えます。

※このとき、ファインダー内の絞り値表示の下にも横棒が表示されます。

※右に回すと小絞り側に[数字の大きい方]、左に回すと開放絞り側[数字の小さい方]になります。

5. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と、絞りが表示されます。

※露出警告

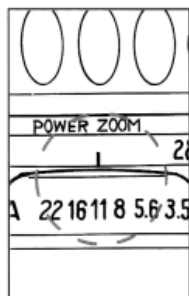
被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルのシャッター速度表示が点滅して警告します。明るすぎるときは絞りを小絞り側[数字の大きい方]に、暗すぎるときは絞りを開放側[数字の小さい方]にして点滅が止まれば撮影できます。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外です。NDフィルター[明るい場合]やストロボ[暗い場合]などをご利用ください。

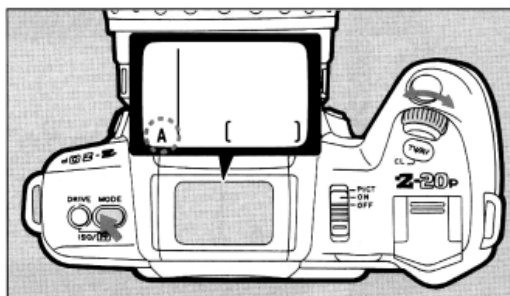
応用的な使い方

57

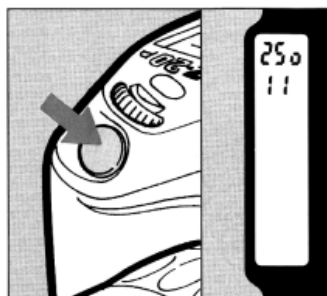
1



2



3



絞りをA位置以外にした場合[電源スイッチはONかPICTにします]

絞りがA位置以外でも絞り優先自動露出が使えます。

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。

2. モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、表示パネルに「A」のマークを出します。

3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度が表示されます。

※F AおよびF レンズの場合、シャッターボタンを半押しすると表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安表示をします。他のレンズの場合は、表示されません。

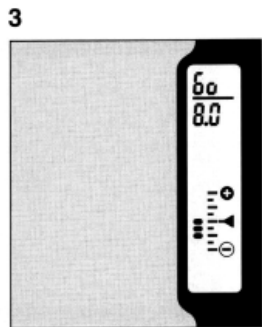
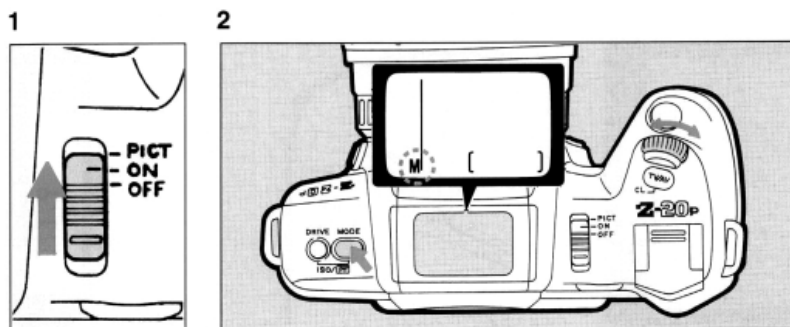
※レンズ情報接点のないレンズ[Mレンズ以前]で絞り優先自動露出を使用したときは、分割測光にならず、中央重点測光になります。

※Aレンズ50mm F1.2の場合、絞りA位置以外では分割測光にならず中央重点平均測光になります。また、露出が1〜1.5EVオーバーになりますので、絞りをA位置にするか露出補正[マイナス補正]をご利用ください。

※露出警告

露出警告は、絞りがA位置のときと同じですから57ページを参照してください。

58



マニュアル露出の使い方

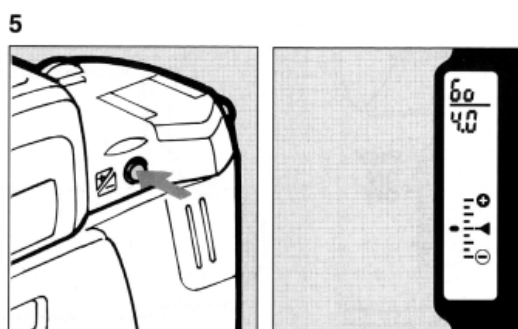
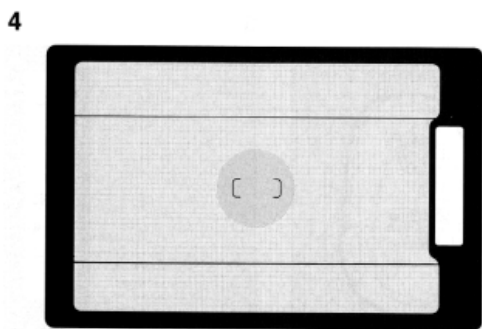
露出計の指示に従って、シャッター速度や絞りを調節すれば、適正露出が得られますが、撮影者の作画意図に合わせた露出で撮影することもできます。マニュアル露出では60ページに示すようにファインダー内中央部の限られた範囲だけで露出を測るスポット測光になりますので、写したいもの[露出を測りたいもの]にこの範囲を合わせて露出を測ってください。

マニュアル露出時にハイパーボタンを押したままシャッターボタンを押すと、シャッター速度や絞り値が明るさによって変化しますので、シャッター優先自動露出や絞り優先自動露出と同じ使い方ができます。

絞りをA位置にした場合

1. 電源スイッチを **[ON]** にします。
2. モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、表示パネルに **[M]** のマークを出します。
* 表示パネルにシャッター速度と絞り値およびバググラフが表示されます。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度、絞り値とバググラフが表示されます。

59

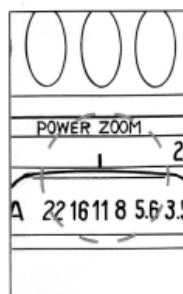


4. 露出を測りたいものを画面中央部の範囲に合わせます。
* スポット測光では、画面中央部の狭い範囲だけで露出を測っています。この部分と他の部分の明暗差が大きい場合には、全体の明るさを考慮して露出を決めないと、不自然な写真になってしまうことがあります。
5. **[M]** ハイパーボタンを押すと、表示パネルに **[M]** が表示されているときは、絞り値が変化して適正露出に、**[A]** が表示されているときは、シャッター速度が変化して即座に適正露出が得られます。[ハイパーマニュアル]。このとき表示パネルとファインダー内のバググラフの中心に黒丸が表示され適正露出を知らせます。その後、セレクトダイヤルでシャッター速度および絞り値を変えれば、好みの露出値で撮影することができます。

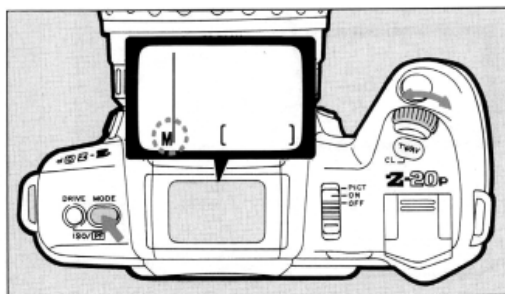
5. * シャッター速度を変化させたいときは、Tv / Av ボタンを押して表示パネルのTvマークの上に **[^]** を表示させてから、[このときファインダー内のシャッター速度の下にも横棒が表示されます]セレクトダイヤルを回してください。右に回すとシャッター速度は速くなり、左に回すと遅くなります。
絞り値を変化させたいときは、Tv / Av ボタンを押して表示パネルのAvマークの上に **[^]** を表示させてから、[このときファインダー内の絞り値の下にも横棒が表示されます]セレクトダイヤルを回してください。右に回すと絞りが絞られ、左に回すと開放側になります。
* 黒丸が **[M]** 側に並んでいるときは露出がアンダー、**[A]** 側に並んでいるときは露出がオーバーです。バググラフの1目盛りは0.5 EVに相当します。ただし、±2 EVを超えてオーバー、アンダーになったときは、**[+]** あるいは **[-]** が点滅表示します。

60

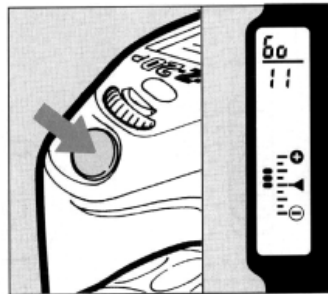
1



2



3



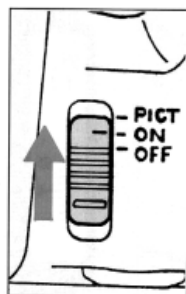
絞りをA位置以外にした場合[電源スイッチは「ON」か「PICT」にします]

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、表示パネルに「M」のマークを出します。
- * 表示パネルにシャッター速度とバーグラフが表示されます。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度とバーグラフが表示されます。
絞りリングで絞りを、セレクトダイヤルでシャッター速度を変えます。

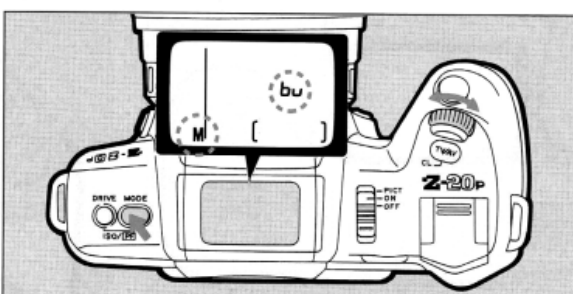
- * F AおよびFレンズの場合、シャッターボタンを半押しすると表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安表示をします。他のレンズの場合は、表示されません。
- * 露出の合わせ方は、絞りがA位置の場合と同じです。
- * ☒ ハイパーボタンを押すと、シャッター速度が切り替わり、即座に適正露出が得られます。[ハイパーマニュアル]
- * Aレンズ50mm F1.2の場合、絞りA位置以外では露出が1～1.5EVオーバーになりますので絞りをA位置にしてお使いください。

⑥1

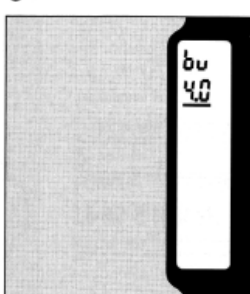
1



2



3



バルブの使い方

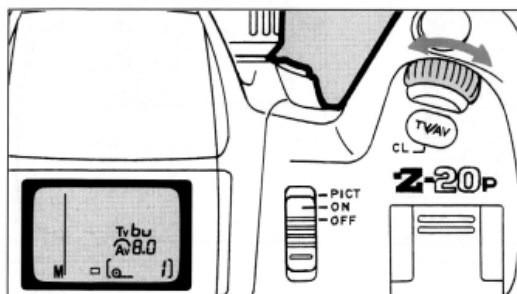
花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。

絞りA位置の場合

1. 電源スイッチを「ON」にします。
2. モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、表示パネルに「M」と「bu」のマークを出します。
- * 表示パネルに絞り値が表示されます。

3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に「bu」と絞り値が表示されます。

⑥2



4. セレクトダイヤルで絞りを選びます。

* セレクトダイヤルは、右に回すと小絞り側[数字の大きい方]、左に回すと開放絞り側[数字の小さい方]になります。

絞りをA位置以外にした場合

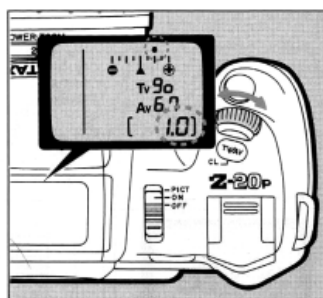
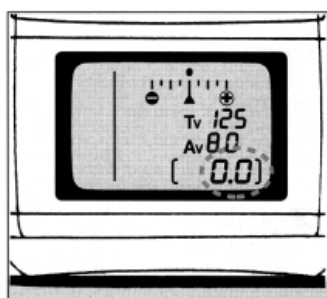
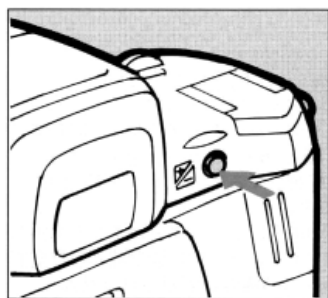
1. 電源スイッチを **ON** か **PICT** にします。
2. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
3. モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、表示パネルに **M** と **bu** のマークを出します。
4. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に **bu** が表示されます。

* FAおよびFレンズの場合、シャッターボタンを半押しすると表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安表示をします。他のレンズの場合は表示されません。

* バルブで撮影するときは、ぶれ防止のためしっかりした三脚を使用し、別売りの「ケーブルスイッチF」をリリースソケットに差し込んでご利用ください。

* 新品のリチウム電池[常温]で、約12時間の長時間露出ができます。

(7) 露出補正について



意図的に露出オーバー[明るい写真]や露出アンダー[暗い写真]にしたいときなどに露出を補正するために使います。ハイパーボタン  を押すと表示パネルに補正值とバーグラフが表示されます。ハイパーボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して希望の補正值を選んでください。

* 露出補正はマニュアル露出・バルブおよびグリーンモードでは働きません。

* 補正值は、-3 ~ +3 EVの範囲で0.5 EVごとに行えます。

* バーグラフの表示は、-2 ~ +2 EV[0.5 EVごと]までです。この範囲を越えた値を設定した場合は黒丸が点滅表示します。

* 露出補正中、ピクチャーモードでは表示パネルとファインダー内に  あるいは  が表示されます。ピクチャーモード以外[電源スイッチが **PICT** で絞りがA位置以外の場合も含む]では、補正值も表示パネルおよびファインダー内のバーグラフに黒丸で表示されます。

* ハイパーボタンを押しながら Tv / Av ボタンを押すと、補正值が0になり露出補正は解除されます。

* 電源スイッチを切ったり、他のモードにしても露出補正は解除されません。